

令和元年10月 市長定例記者会見

2019年10月9日(水)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから10月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

まず最初に、お知らせを申し上げます。記者クラブの方に異動がございまして、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介します。

【記者】 <記者挨拶>

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、本日の会見につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。質問につきましては、事業発表についてからお願ひしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

質問の際は、お手数ですがご自席のマイクを使ってご質問をよろしくお願ひいたします。

終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。

それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 10月定例記者会見よろしくお願ひします。昨日まで9月議会をしていましたのでお世話になりありがとうございました。

今回の9月議会は、決算の認定というのを例年よりも早くやりまして、9月議会でご審議をいただいて、議員の皆さんの意見なども反映できるような形ということを求めてやってきたところでございます。

そしてまた、議会が終わりまして、今度10月14日から20日までアメリカのほうに行かせていただきますので、後ほどご紹介もしますが、職務代理者を置いて行ってこようというふうに考えております。

また、台風が来ておりますが、何とか台風は南のほうにそれるのかなというふうに思っていますので、ちょっと安心のかなというふうに期待しているところでございます。

あと、10月4日の日に、敦賀ものづくり産業懇話会というのを昨年つくらせていただきましたけれども、暫定的な会長を私させていただいておりましたが、東洋紡の社長さんが会長を受けていただきましたので、企業間の工場がある会社のグループということで、企業間のネットワークが広まったり、また私どもとの情報交換をする中で人口減少対策とか人が敦賀に帰ってくるような仕掛けということをつくっていきたくと思っていますし、また取り組んでいただいていますのは、憧れとなるような企業をつくっていかうということで、小学生の子供たちにもいろんなアプローチをしていただいておりますので、それも前に進めていきたいというふうに考えております。

今日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をよろしくお願ひいたします。

【市長】 本日は、事業発表は3つあります。

1つは、今ほど申しましたが、訪米使節団の派遣ということでございます。

今月14日から20日にかけて、和泉市議会議長とともにアメリカを訪問させていただきます。人道の港敦賀を広く情報発信するとともに、現地の杉原サバイバーやユダヤ関係

者との面談を通じてネットワークの拡充を図っていきたいと思っています。

主な面談者等につきましては、添付資料がございますけれども、ロサンゼルスとシカゴとニューヨークということで、大きなユダヤコミュニティがあるところを選んで行かせていただくわけがございますけれども、外務省で同行していただく方もおりまして、国のほうとしては、アメリカの経済界とよりつながってほしいなという意味があると思いますが、敦賀の気持ちとしましては、戦時中のユダヤ難民のときでも厳しいことをした軍事情勢があるかもしれませんが、普通の市民の皆さんは優しかったんだよということを敦賀市民をスタートにして日本人としての優しさをアメリカで伝えられたらいいなというふうに考えております。

それから2つ目ですけれども、第38回敦賀マラソン大会の開催ということでございまして、福井国体の開催によりまして2年間の休止期間を設けざるを得なかったんですけれども、このたび3年ぶりに敦賀マラソン大会を開催させていただきます。今大会は、今年で第38回目となり、市内外から2741人の参加者をお迎えして盛大に開催したいというふうに考えております。1海里ですから1.85キロメートル、それから3キロ、5キロ、10キロ、全ての種目が敦賀市の中心市街地を走るコースで、ランナーの皆様が多くの声援を背に楽しく走っていただける大会となるようにさせていただきたいと思っております。当日は、県民交流サポーターとして活躍中のマスコットキャラクターであります「はぴりゅう」も応援に駆けつけてくれますので、ぜひ皆さん、参加もいいですし、ご覧になっていただきたいと思っております。

それから最後ですけれども、「健康応援フェスタ2019～見よう！学ぼう！体験しよう！敦賀病院～」の開催につきましてでございますが、市立敦賀病院では、健康応援フェスタ2019を去年に引き続き開催させていただきます。開催日時は令和元年11月2日土曜日の午前10時から午後3時まで、市立敦賀病院で行います。模擬店や各種体験コーナーもあり、子どもから大人まで楽しめる内容になっておりますので、ぜひご参加ください。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんから、よろしく願いいたします。

【記者】 市長、訪米団のことなんですけれども、これは何かアメリカに行かれるという、ユダヤコミュニティというのは世界中あるわけなんですけれども、アメリカを選ばれた理由とか、それから今後これがどういうふうな発展性を持って敦賀市にアウトプットされてくるのか。その辺の構想を教えてください。

【市長】 人道の港ムゼウムにつきましては、外国人の来訪者というのが増えております。それは一つは、中部運輸局がやっています杉原千畝ルートというのを名古屋、八百津、高山、白川村、金沢、敦賀というルートでつくっていただいていることもあると思っておりますけれども、そういう中で、もう少し外国人にアピールしたいなという思いは常々あったんですけれども、ユダヤの方々がたくさんいらっしゃる国としてアメリカは強い力を持っていらっしゃいますので、そこに行ってアプローチをしようということを考えております。

当然、職員がイスラエルに行ったり、私どももリトアニア、ポーランドに行っておりますので、その続きの中で、一連の中でさせていただこうということでもあります。

【記者】 市長、具体的には何か今度アメリカとの計画みたいなものはあるんですか。アメリカ側との計画。

【市長】 いや、そんな大きなことはないので、私も初めて行きますので、それぞれお会いする、ここにありますが、カリフォルニアの上院議員さんから始まってということになりますが、ユダヤコミュニティのいろんな方にお会いしますし、ニューヨークでは敦賀に来ていただいたカルマン・イエガーさん、この方は最初は日本を通過してないと思ってたんですね、おじいさんは。ところが敦賀に来たことによって名簿を開けて見ることができて、日本にお世話になったんだということもわかりましたので、そういう一人一人を大事にしながらいろんなネットワークを広げていきたいというふうに思います。

【記者】 訪米のことでお伺いしたいんですけれども、ネットワーク拡充、例えば具体的にどういった交流を考えられているのでしょうか。

【市長】 交流といいますと、とりあえずお会いする方々はほとんどが初めて会う方々ばかりですので、その方たちのグループがあると思いますので、その方たちとのつながりというのを深めていきたいというふうに思っています。

また、今ほど言いましたカルマン・イエガーさんとか、メラメドさんとか、サバイバーの方で敦賀に訪れた方々にもお会いすることになりますので、来られるときはお一人とか数人で来られますけれども、向こうに行きますとその方たちの親族とか知り合いとかありますので、その辺のネットワークの広がりというのは期待しているところです。

【記者】 行ってからの話になるかもしれませんが、またこちらに呼んだりとかということも考えられているのでしょうか。

【市長】 もちろん、こちらに来ていただいて、今のムゼウムとか新しいムゼウムとかも見ていただきたいということも伝えてこようと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきます。発表項目につきまして、ご質問等ありましたら挙手をよろしくお願いいたします。

【記者】 訪米団について、続いてお聞きしたいんですけれども、具体的に今、海外クラウドファンディングで新しいムゼウムに呼びかけていらっしゃると思うんですけれども、今回の訪米でもご面会する方々に協力をお願いするという形でのよろしいのでしょうか。

【市長】 もちろんお願いするつもりでおります。当初、私ども行くのに8月ぐらいを予定していたんですけれども、8月に行きますとニューヨークの市議会とかが1カ月のクローズだということで、そういう方たちと会えないということでしたので10月に延ばしたので、延ばしたことによってクラウドファンディングも延ばしましたので、そのために延ばしましたので、お願いしてまいります。

【記者】 続いて確認なんですけれども、今回ご面会する方々は皆さんユダヤ系の方々でよろしいのでしょうか。

【市長】 基本的にはそうです。

【記者】 訪米使節団の事業費を教えてくださいませんか。

【市長】 700万ぐらいだったと思いますけれども。

【秘書広報課長補佐】 では、後ほど記者クラブさんにご報告させていただきます。

それでは、ほかいかがでしょうか。——よろしいですか。

それでは、フリーの質疑応答へと進みたいと思います。こちらにつきましても幹事社さ

んのほうからよろしくお願いたします。

【記者】 その他といたしまして、市長、関西電力、ずっと一連の問題が出ているわけですが、今日、八木会長と岩根社長がやめられるということで、3時に大阪で記者会見されるらしいんです。そういうことになったらいいです。

それで、全原協会長としての原子力への影響とか、まして今回、公務員との関係のことも取り沙汰されていますので、自治体の長としてもですけれども、どういうふうな見方をされているか。ちょっと幅広いかもかもしれませんが、ご見解を伺えたらなと思います。

【市長】 関西電力につきましては、個人や業者から金品を受領していたということも問題になっておりますけれども、公益事業を行う企業とまでは言えないかもしれませんが近いものがあると思いますので、そういう企業としてコンプライアンスとか企業倫理というのは欠如していると言わざるを得ない事態でありますし、立地地域との信頼が大きく損なわれたというふうに考えています。これについては非常に遺憾であるというふうに思っていますし、また、原子力事業に対する国民の不安ということを招いたことにつきましても、関西電力にはしっかりと責任を痛感していただかなければならないというふうに考えています。

【記者】 ほかの自治体のことですけれども、電力事業を通して、公務員との金品を通じた関係ということも指摘されている部分があるので、そこは自治体の長としては、今後、例えば市役所の中でもさらに意識の徹底とか、そういうようなことのお考えはありますでしょうか。

【市長】 敦賀市としてですか。敦賀市としてというのは余り考えにくいんですけれども、今回の事件というのは本当に驚きでありますし、こちらは皆さん、敦賀に、福井県にいらっしゃる記者さんばかりですので、そんなことはないと思いますが、全国で見たときには、関西電力でなくてほかの電力会社も当然そんなことをやっているやろうというふうに思われるというのは非常に心外だというふうに思います。ですから、しっかりと関西電力のほうで調査して説明責任を果たしていただきたいですし、また知事のほうでも調査するとおっしゃっていますので、その中でしっかりと明確にしていきたいというふうに考えています。

【記者】 リラ・ポートの件なんですけれども、百条委員会が設置されまして、市役所のほうではもう調査というのは始まっているのでしょうか。今後のことも含めて、調査をもしやっておられるんだったら、いつから調査が始まったかとかいうことも含めて、お願いしたいなど。

【市長】 調査というのは、何の調査でしょう。

【記者】 リラ・ポートの資料をもともと説明していたみたいなんですけれども。

【市長】 ここにこういう書類があるという調査ですね。それは今進めております。

【記者】 具体的にいつから始まるとか、そういう言い方はできないですか。何日から何日ぐらいまでと。

【市長】 それはちょっと控えさせてもらいます。

【記者】 始まったことは始まったということで。

【市長】 はい。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん、よろしくお願ひいたします。

【記者】 副市長にお伺ひしたいんですけども、関西電力の件で、県が調査されているみたいなんですけど、副市長も、かつて嶺南振興局にいらっしゃったことがあると思うんですけど、そのときに何かそういった接触とか、逆に何か覚えていらっしゃること、もしくは県から調査を受けている等のことはあるのでしょうか。

【副市長】 元高浜町の助役の方と、私が嶺南振興局にいたときの関係でございますが、人権関係でお世話になっているということで、中元とかお歳暮のやりとりはございました。私自身は、いずれも儀礼の範囲内であったというふうに考えております。

県にいたときのこともございますし、今後、県の調査が入るということで聞いておりますので、その調査に誠実に対応してまいりたいというふうに今は考えております。

以上です。

【記者】 今、その調査の中で返還したかどうかというところも注目されている部分なんですけど、受けた儀礼を別の形で返還しているとかという話もあるんですけども、記憶の中でそういったことをされたというようなことはございますでしょうか。

【副市長】 今ほど申し上げましたように、中元、お歳暮等のやりとりはございました。それで、それ相当のものをお返ししているということで、儀礼の範囲内だということで考えているということでございます。

今後は、また、思い出せない部分もたくさんありますので、調査に対して真摯に対応していきたいというのが今の気持ちでございます。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺ひをさせていただきます。ご質問がありましたら挙手を。

【記者】 続けて関連なんですけれども、お中元、お歳暮を受け取った時期というのはいつごろになる。何回ぐらいだったのでしょうか。記憶の範囲内で。

【副市長】 基本的には、県にいたときの話で、しかも県の調査が入ることなので、そこで回答させていただきたいと思っておりますけれども、お中元とお歳暮と合わせますと6回ぐらいはあったと思います。内容は、はっきり今まだ思い出せないところもたくさんありますので、ご容赦いただきたいと思います。

【記者】 あと瀧上市長にお伺ひしたいんですけども、今日八木会長が関西電力の関係でやめるということで、それに対する所感というのを全原協の会長としてコメントありましたらお願いいたします。

【市長】 やめられるというのは聞きました。ただ、どんな経緯かというのはしっかり聞いておりませんので、なかなかコメントできないという部分がありますが、まず一番しなくてはいけないのは、説明責任を果たすためにどういうことができるかということがまず大事だと思います。今直ちに責任とって皆いなくなってしまうと、その追及はなくなってしまう可能性がありますので、まず説明責任を果たした上で、きちんとした対応をそれぞれやっていただきたいと思いますというふうに思います。

【記者】 関連で、関電の岩根社長なんですけれども、今、電事連の会長も務めています。電事連の会長ということで、そういった責任というものは、岩根さんこれから追及されるべきだとは思っていますか。思っているんだしたら、そのあたりをお願いします。

【市長】 電事連の会長というのは、だったからということではなくて、会社としてのコンプライアンス、企業倫理という部分が重大だと思いますけれども。

【記者】 地元の人とかは、敦賀じゃなくて申し訳ないんですけども、福井県民のほうは、関電のトップのほうも早くやめたほうがいいんじゃないかという声もありますけれども、タイミングとしては、もっと早いとか、今が適正とか、全部調査が終わってからとか、そういった思いというのはあるのでしょうか。

【市長】 今ほど言いましたように、いろいろ考えますと、例えば今すぐやめるべきだといって、みんながやめてしまったら、あと私らよくわかりませんという人が残ってしまうのは非常にづらいのかなど。ですからやっぱりきちんと調べというのが第一義だと思いますので、調べていただいた上で、その後きちんと責任をとっていただきたい。ですから、やめるというのが責任のとり方だけではないと思いますので、きちんとしてほしいと思います。

憤りは非常に感じます。

【記者】 引き続きなんですけれども、副市長の儀礼の範囲でのお中元、お歳暮のやりとりというのは、やりとりですから、これは副市長のほうからもお礼ということで贈られていたと。そういった理解ですかね。

【副市長】 いただいて、またお返ししました。

【記者】 お中元とお歳暮の時期になりますと、副市長も向こうが来るからというんじゃないで贈ってもおられたということ。来なくても贈っておられたということ。

【副市長】 はっきり覚えてないんですよ。どちらが先に例えば中元の時期に贈ったかというのは。

【記者】 だから、そういうことを意識せずに贈る関係がしばらくあったということ。

【副市長】 そういうことなんですけれども。

【記者】 当然ながら贈らないかんだろうということですか。

【副市長】 先ほど言っていますように、県の調査が入りますので、そこで明らかにしていきますし、明らかにというか思い出していきますし、私としては儀礼の範囲だったと考えているということで、物品のやりとりはあったということで今お答えをさせていただいたということです。

【記者】 要するに、関西電力とは一線を画すんですよということですよ、これは。もらっているもの、そのものも一線を画すという話ですか。例えば小判が来たりとか、そんな話じゃないでしょう。

【副市長】 それはないです。

【記者】 そんな話じゃなくて、通常の食品とかそんなもののやりとりということですね。

【副市長】 はい。

【記者】 副市長、済みません。その関係でいうと、今現在、敦賀市の職員の中でそういった関係が昔あったというふうなこと、そういうことは今ないんですかね。これはむしろ市長にお伺いしたほうがいいのかもしれないけれども、それはないんですか、市役所で。

【副市長】 それを今、私に聞かれるのもちょっと難しいんですけども、ご趣旨がわかりませんけれども。質問のご趣旨が。

【記者】 人権関係といいますと、敦賀市も少しはあるのかなと思いますし、今回の件だ

けじゃなくて、そういうふうなやりとりがあるようなことがあるのかなど。物のやりとり。お金もそうなのかもしれませんけれども。お金は多分ないと思うんですけれども。

【市長】 私の知る限りでは。市の中ですよ。市としては、そういうのはないと思います。ですから今回、お名前も初めて知りましたので、その程度ですから、つながりはこちらまでは及ばないのではないかと思います。

【記者】 なるほど。もう一人の副市長は昔から知っているから。

【副市長】 申し訳ありません。私も今回の報道で初めて知ったところなので。正直に申し上げます。それで今言われる人権関係についても、特にその方が例えば会議の場に、市との絡みの中でですけれども、出ておられたりとかという記録も、確認しましたけれどもそういうものはないし、担当者のほうもそういう記憶はないということですので、直接うちのほうと、人権関係で関連したことは全くないんだと思います。

他についても、直接絡んだような覚えは私もないんです。

【記者】 ということは、この問題が表沙汰になってから一応、簡単に確認してくれたということなんですね。

【副市長】 一応人権ということも出ていましたので、私どもも関係というと変ですけれども、そういう会議も持っておりますので、一応確認はさせてもらった。

【記者】 敦賀はどうも大丈夫そうだなというところ。

【副市長】 関係はないということで。

【記者】 わかりました。

【記者】 関連して。市長のお答えで、ちょっと明確でなかったんですけれども、敦賀市さんと職員さん、OBさんを含めて、ほかの電力さん、関電に限らず原電さん、機構さんも含めて、過去にそういった不適切な関係がなかったか調査するお考えはありませんか。

【市長】 過去にさかのぼってですか。その考えは、電力さんは今聞いておりますと、原電では社内調査により不適切な事案はなかったということを知っていますし、原子力機構においては倫理規程に反する行為はこれまでのところ確認されていないというふうに聞いていますので、それでいいのかなというふうに思っています。

【記者】 繰り返しになるかもしれませんが、関電のそういう金品の受領というお話が出ました。原子力事業そのものに対して、信頼というものが非常に揺らいでいるという状態だと思います。直接的に関電の原発が立地しているわけではありませんけれども、そういう原子力事業への失われた信頼というのをこれから取り戻していくためには、どういうことを関電側には求めたいというふうにお考えなのか、教えていただけますか。

【市長】 これからの作業になるんでしょうけれども、先ほども言いましたように、説明責任を果たすためにしっかり調査をしていただきたい。その調査結果に基づいて、しっかりと処分をしていただきたいというふうに考えます。それがまず大事な第一歩だと思います。

【観光部長】 先ほどの訪米に関するご質問の中で、面会するのはユダヤ系の人たちのみかというご質問があったかと思います。それにつきましては、現地の日本人外交官、大使、総領事を初め、旅行誘致にかかわる関係機関の方々、現地駐在日本人ともお会いする予定です。

あと事業費の件でございますが、訪米使節団派遣の費用につきましては627万7000円の事

業費でございます。

以上でございます。

【記者】 日本人の方はいいんです。会われる現地の方々、アメリカ籍の方々は皆さんユダヤ系の方かという趣旨だったんですけども。

【観光部長】 基本的にそうです。

【記者】 昨日もちょっとお聞きしたんですけども、ムゼウムのお話でお聞きしたいんですけども、昨日議会で指定管理者の選定委員会の運営費の削除という修正案が可決されました、それを受けて市長は直営でという方針を示されたわけなんですけれども、運営方式を検討してきた委員会のほうでは、やはりいろんな形で指定管理が望ましいという結論が出ているわけですよね。市としても指定管理が望ましいという形で今回議案として提出された。その中で、直営という形で今後検討されていくということは、指定管理でできることが直営でできない可能性もあると思うんです。その辺、今後の展望はどのようにお考えなのでしょうか。

【市長】 それはこれから検討させていただきますけれども、できないこともたくさんあると思います。当然。

【記者】 できないと、新しいムゼウムというものの効果というのは薄れますし、魅力も薄れますよね。

【副市長】 そこは直営にしても、なるべくたくさんのお客様が来ていただけるようにいろいろと考える。だから今後検討するという事なんです。営業活動費なんかも持たなくてはいけないでしょうし、それである程度の金額、既に議会に示しておりますので、そういった中でどういう対応がとれるか。できるだけお客様を増やすように、どんな対応がとれるかというのは、ある程度は検討しているんですけども、例えば人道の港発信室を新しいムゼウムに持っていくとか、そういったことも含めて検討はしておりますけれども、さらに検討を深めていって、新しいムゼウム、ちゃんと運営していけるといいますか、敦賀市のちゃんとしたシンボルになるように、それはそれとして当然努力していくということでございます。まだ未定の部分はたくさんありますけれども。

【記者】 それともう1件、別件で。

先ほど百条委の質問も出ましたけれども、今後、リラ・ポート、百条委の調査に市としてどういう姿勢で対応されるのか。それと、現時点で一連の流れの中で、市としての瑕疵はなかったと考えていらっしゃるのか。お聞かせください。

【市長】 百条委員会につきましては、産経建設委員会の中で議論、聞き取りがありましたけれども、その中でもそうですけれども、事実に基づいてしゃべっておりますので、特別なことをやっているわけではありません。ですから百条委員会でも同じようなことをしゃべるように、同じように素直にしゃべればよいということを伝えてありますので、余り気にはしていません。

その中で一つだけ言うてあるのは、ここはしゃべれませんとかいう言葉がありますけれども、それはそうじゃなくて、地方公務員法の何条とか、何条によってしゃべれないんですよということを明確に言いなさいよということは伝えてありますので、今までの発言から大きく変わることはないというふうに思っています。

といいますのは、市の職員というものは担当が変わっていきますので、資料に基づいてし



やべるだけですので、何もないところで空想でしゃべっているわけじゃないので、しっかりしゃべってくれていると思います。

あと細かいことで、例えば日付をつけ忘れたじゃないかとか、これは何日か前じゃないかとか後じゃないかとか、そういう細かい部分はどこかに出てくるでしょうけれども、それ以外はないと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、これもちまして10月の市長定例記者会見を終わります。

どうもありがとうございました。

午後2時2分 終了